

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27 - 84	高等学校	地歴公民科	地理 B	全学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地 B - 304	新詳地理 B 代表著作者 片平博文 ほか 9名		

1 編修の趣旨及び留意点

▶ “新しい社会を生み出す創造力”の育成をめざして

現代の社会はグローバル化・情報化・少子高齢化など、さまざまな変化が急速に進んでおり、高校生が身につけるべき知識や教養も変化している。私たちは、高校生がこのような社会の変化を踏まえて学習できるよう意を注いだ。

そのうえで私たちは、今回の教科書の編修にあたって、これからの社会を担っていく高校生に対し、“新しい社会を生み出す創造力”を身につけ、主体的に社会の形成に参画する人間になってほしいと考えた。将来において、社会に対する安心感をいだきながら平和な生活を持続していくためには、現代世界の特性を深く知り、その諸課題を解決する新しいしくみやモデルを構築する能力が不可欠である。そのための“創造力”を育成できるよう、とくに以下の方針を重視して本書を編修した。

本 書 の 編 修 方 針

① 現代世界が抱える諸課題の解決に向けて、主体的に取り組む態度を育成できる教科書

- ・環境問題や食料問題、資源・エネルギー問題など、現代世界が抱える諸課題について多くのページを割いて取り扱い、それらの諸課題に対して地球的視野から理解を深められるようにした。
- ・現代世界で起きている諸課題について、具体的な地域事例を充実させ、地域による課題の違いが考えられるよう配慮した。とくに先進国と発展途上国の違いが理解しやすい内容構成にした。
- ・環境問題、食料問題、資源・エネルギー問題、人口問題、都市・居住問題、民族・領土問題といった諸課題について、単元のおわりに地球的課題の解決への取り組みを考える特設ページ「**地球的課題の追究**」を設け、諸課題の解決への取り組みについて、生徒自身の考えをまとめられるよう配慮した。
 - ▶ p.93「海洋汚染」(環境問題)、p.179「感染症と保健医療」(人口問題) など
- ・全編を通して日本の事例を豊富に取りあげ、日本と世界各地の地理的事象を比較・対照させることで、現代世界が抱える諸課題への理解をより深められるよう工夫した。

② 思考力・判断力・表現力を育成できる教科書

- ・各項タイトル横の側注欄には、「リード」を設け、その項の学習内容の視点や課題を明確に示した。また、各項のおわりには、「チェック」を設け、生徒が学習の要点を確認できるようにした。「チェック」は、自分の言葉で説明する内容を中心に構成し、思考力・判断力・表現力を育成できるよう配慮した。
- ・図表の読み解きの視点を示した「**読図**」を各所に設け、写真や図表から地理的・地域的特色を考察する力を育成できるよう工夫した。
- ・学習内容に合わせて、特設ページ「**技能をみがく**」を全 20 か所設け、地理的な見方・考え方や地理的スキルを身につけられるよう配慮した。
 - ▶ p.11「時差の計算」、p.105「図形表現図の読み取り方」 など

2 編修の基本方針

第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健康やかな身体を養うこと。

「幅広い知識と教養を身に付け」について、本書では、現代世界の地理的事象を系統地理的に捉える学習と、現代世界の諸地域を歴史的な背景を踏まえて地誌的に考察する学習を通して、幅広い知識と教養を身に付けることと捉えた。

- ① 詳細な記述によって、現代世界の地理的事象や諸地域を深く理解できるよう工夫した。その際、具体例を挙げながら可能な限り背景や因果関係まで記述することで、生徒が理解しやすいよう配慮した。
- ② 写真やグラフ、模式図などの視覚資料を数多く設け、さまざまな資料を活用しながら学習内容の理解を深められるよう配慮した。また、本文行間には写真や図表への参照記号を設け、本文と写真や図表との関連をはかりながら学習できるよう工夫した。
- ③ 「用語解説」を充実させ、地理を学習するうえで重要な用語の理解を深められるよう配慮した。
▶ p.29「大地形と小地形」、p.140「先進国と発展途上国」 p.195「ジェントリフィケーション」など
- ④ 「トピック」や「地域を見る目」、「プラスα」などのコラムを設け、学習に関連する事象について、より幅広い知識を身につけられるよう工夫した。
▶ p.52「風の成因」(プラスα)、p.104「急増する南アメリカの大豆生産」(地域を見る目)、p.134「日本近海の海底資源」(トピック) など

「真理を求める態度を養い」について、本書では、自ら発見した疑問や課題を多面的・多角的な視野から考察する態度を養うことと捉えた。

- ① 「第I部2章 地図の活用と地域調査」では、課題の設定方法から、調査・探究内容のまとめ方、発表方法まで、具体的なレポートとともに構成し、生徒自らが課題を発見し、真理を求める態度を養えるようにした。
- ② 「第III部3章 現代世界と日本」では、さまざまな立場から地球的課題を考えることの大切さがわかる本文や資料で構成し、多面的・多角的な視野から課題を探究する態度を養えるようにした。

「豊かな情操と道徳心を培う」について、本書では、世界各地の生活文化とその背景を理解し、多様な文化や固有の価値を尊重する態度を養うことと捉えた。

- ① 各地に暮らす人々の姿が見える本文や写真を取り扱い、人々の生活と自然環境や産業などの地理的事象とのかかわりが捉えられる内容構成にした。例えば、世界の気候区分の単元(p.56～71)では、「熱帯の自然と生活」、「乾燥帯の自然と生活」などの項目を設け、気候の特徴とそこで暮らす人々の生活とのかかわりを重点的に描いた。
- ② 具体的な地域事例を示した「地域を見る目」を各所に設け、世界各地の生活文化などのさまざまな地理的事象やその背景を理解できるようにした。とくに、現代世界が抱える重要な課題である環境問題や人口問題、都市・居住問題、民族・領土問題の単元で充実させた。
▶ p.91「石炭依存と環境保護にゆれるポーランド」、p.221「多民族・多文化社会のオランダ」 など
- ③ 世界各地への独自取材の成果を本文や写真に生かし、その地域の臨場感を感じとれる記述内容に工夫した。
▶ p.101「フィードロットの新しい課題」(2014年のアメリカ合衆国での取材成果を反映) など

第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

「創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」について、本書では、高校生が主体的に学習に取り組み、自分なりの意見や考えをもつ態度を養うことと捉えた。

①地理的技能を身につけるための特設ページ「**技能をみがく**」では、作業課題の「**TRY**」を各所に設け、主体的に学習に取り組めるようにした。また、地理的見方・考え方の視点を示した「**ポイント**」を各所に設けた。

②地球的課題の解決への取り組みを考える特設ページ「**地球的課題の追究**」では、与えられた資料を踏まえて自分の言葉で説明する課題を設け、自分なりの考えをまとめ、表現する力を育成できるよう工夫した。

▶ p.93「海洋汚染」(環境問題)、p.117「食の安全」(食料問題)、p.179「感染症と保健医療」(人口問題) など

③さくいんを充実させ、調べたい語句を容易に探し出せるよう配慮した。また、学習内容が他のページと関連する場合には、関連する内容が掲載されたページを示す「**リンク**」を側注欄に設け、学習をより深められるよう配慮した。

*上記のほかに、「リード」、「チェック」、「読図」などのページ構成の工夫によって、生徒が主体的に学習できるよう配慮した。

「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う」ことについて、本書では、世界の人々の生活や産業に触れ、各地でみられる多様な工夫への認識を深めることと捉えた。

①産業や生活文化の単元を中心に、世界各地の人々の営みや暮らしがわかる写真を各所に配置した。また、各所に設けた「**トピック**」や「**地域を見る目**」などのコラムで、世界の人々の生活や産業のようすを具体的に取りあげた。

▶ p.99「観光産業と共存するアルプスの農業」(地域を見る目)、p.154「コンビニと物流システム」(トピック) など

第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる」について、本書では、異なる立場の相手を尊重する態度を養うことと捉えた。

①日本に住む外国人との共生について、日本の立場だけでなく外国人の立場についても丁寧に取り扱い、異なる立場の相手を尊重することの重要性に気づかせるようにした。

▶ p.177「労働者の不足と外国人の受け入れ」、p.225「日本にくる外国人との共生」 など

②「第Ⅲ部3章 現代世界と日本」では、KJ法やディベートなどの方法を紹介し、生徒がたがいに協力し、意見を交換しながら学習を深められるよう配慮した。

「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う」について、本書では、持続可能な社会の形成のために主体的に参画する態度を養うことと捉えた。

①環境問題、食料問題、資源・エネルギー問題、人口問題、都市・居住問題、民族・領土問題について、「**地球的課題の追究**」のページを設け、持続可能な社会の形成に向けて、生徒が自分の考えをもつことができるよう配慮した。

②「第Ⅲ部3章 現代世界と日本」では、日本が抱える地理的な諸課題の例として「地震災害に強い国土づくり」をテーマに設定し、持続的な国土の形成について生徒自身が主体的に考えられるようにした。都市の開発や人口の分布など既習事項を生かした探究活動になるよう配慮した。また、まとめた意見については積極的に国や自治体に提言することを本文や掲載資料で示し、社会参画に主体的に参画する態度を養えるよう配慮した。

第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

「生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う」について、本書では、環境の保全に寄与する態度を養うことと捉えた。

- ①全編を通して、自然環境の項目を充実させ、世界各地の自然環境の現状への認識を深められるよう配慮した。「第Ⅲ部2章 世界の諸地域」においては、取りあげた全地域で自然環境を学習できるよう工夫した。
 - ▶ p.247「モンスーンの影響を受ける自然環境」(東南アジア), p.308「南北と標高で異なる自然環境」ラテンアメリカ など
- ②「第Ⅱ部1章4節 環境問題」の単元では、さまざまな環境問題について、原因や発生地域を示すだけでなく、解決への取り組みまで丁寧に取り扱い、環境を保全することの重要性を理解できるよう工夫した。例えば、森林破壊 (p.86～87) については、解決への取り組みとして、国連や先進国の企業による植林の取り組みなどを紹介している。取りあげたおもな環境問題は以下の通り。
 - ▶ p.83「オゾン層の破壊」, p.84「地球温暖化による影響」, p.86「森林破壊」, p.88「進行する砂漠化」, p.90「大気汚染と酸性雨」

第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」について、本書では、日本の伝統文化を尊重するとともに、日本人が長い歴史のなかで培ってきた勤勉さや協調性など、世界に誇るべき資質に気づき、我が国や郷土を愛する態度を養うことと捉えた。

- ①「第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察」では、自然環境、農林水産業、人口問題などの項目ごとに日本の事例を丁寧に取りあげ、日本の産業や生活文化とその背景への理解を深められるよう工夫した。項目ごとに整理することで、世界と比べた日本の特色への理解をより深められるよう配慮した。
- ②「第Ⅱ部4章1節 世界の衣食住」では、日本の衣食住について取り扱い、日本の伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を養えるよう工夫した。
- ③「第Ⅰ部2章 地図の活用と地域調査」では、歴史的な街なみの保全に取り組む奈良市を事例に取りあげ、日本の伝統文化への理解が深まるよう配慮した。
- ④「第Ⅱ部4章4節 民族・領土問題」では、日本の領土について、領域がわかる図や写真を用いて丁寧に解説し、領土をめぐる問題の平和的な解決方法を考えるための基礎・基本となる知識を習得できるようにした。

「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」について、多様な課題を抱える他国の立場への理解を深め、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことと捉えた。

- ①食料問題や都市・居住問題、民族・領土問題などの地球的課題について数多くの事例を取りあげた。その際、例えば、食料問題については「発展途上国の食料問題」と「先進国の食料問題」の項目を設け、立場の違いによる問題の現れ方や原因の違いを理解できるよう配慮した。
- ②「第Ⅲ部2章 世界の諸地域」では、「日本との結びつき」を各所に設け、日本と各国・地域がたがいに協力することの重要性を理解できるよう工夫した。
- ③「第Ⅲ部3章 現代世界と日本」では、日本の課題として「発展途上国への技術援助や環境面でのさらなる貢献」を本文で紹介し、国際社会への貢献の大切さに気づくよう工夫した。

3 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1部1章 地理情報と地図	<ul style="list-style-type: none"> ●リモートセンシングやGNSS, GISなどの技術について、実社会での具体的な活用例とともに学習できるようにした。また、リモートセンシングの技術を用いた例として、変化する世界のようなを示した衛星画像を巻頭1～2に掲載した。第1号 ●「技能をみがく」を各所に設け、読図や地図化など、地理学習を進めるうえでの基礎的・基本的な技能が身につけられるようにした。第1号 第2号 	p.6～7 巻頭1～2
第1部2章 地図の活用と地域調査	<ul style="list-style-type: none"> ●学校所在地を中心とした地域における具体的な作業方法や手順、まとめ方を示し、生徒自身が暮らす地域の調査に活用できるよう配慮した。第1号 	p.11,16～17,19, 20～21
第II部1章 自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の自然環境の基礎となる地形や気候について考察できるよう、大きな写真や模式図、図表を豊富に用いて構成した。第1号 ●地形や気候の成り立ちに加えて、人間生活とのかかわりも丁寧に記述した。その際、自然の正の側面と負の側面の両面を理解できるように配慮した。第3号 ●自然環境とのかかわりの深い環境問題について、原因や分布の解説にとどまらず、解決への取り組みまでを記述した。第3号 第4号 	p.22～26 p.28～75 p.32～33,36～38, 40～41,60～71など p.82～92
第II部2章 資源と産業	<ul style="list-style-type: none"> ●生産や貿易などの分布図を豊富に掲載し、先進国と発展途上国の違いなどの地域的差異を捉えられるようにした。第1号 ●食料や資源をめぐる問題など、現代世界が抱える課題について取りあげ、持続可能な社会を形成するための態度を養えるよう配慮した。第1号 第3号 	p.106～107, 146～147など p.112～117, 128～135
第II部3章 人口、村落・都市	<ul style="list-style-type: none"> ●人口問題、都市・居住問題などの現代世界が抱える課題について取りあげ、持続可能な社会を形成するための態度を養えるようにした。第3号 	p.171～179, 191～200
第II部4章 生活文化、民族・宗教	<ul style="list-style-type: none"> ●民族・領土問題については、世界や日本における豊富で具体的な事例を通して、資源や宗教、政治・経済などのさまざまな要因が背景にあることを理解できるようにした。第3号 第5号 	p.215～226
第III部1章 現代世界の地域区分	<ul style="list-style-type: none"> ●現代世界が、さまざまな指標によって地域を区分できることに気づかせ、地域の概念や地域区分の意義を理解できるように構成した。第1号 	p.228～229
第III部2章 現代世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> ●特定の国や地域にかたよらず、さまざまな地域をバランス良く取りあげるように留意した。第1号 ●「日本との結びつき」を各所に設け、日本と各国・地域がたがいにすることが国際社会の平和と発展に寄与することに気づかせるようにした。とくに、経済的な結びつきを丁寧に記述した。第5号 	p.232～323 p.241,246,255,262, 269,276,288,294,307, 315,323
第III部3章 現代世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> ●探究や発表においては、思考力・判断力・表現力を育成するために、自分の解釈を加えて討論する言語活動を示した。第2号 	p.324～329

4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点

1. すべての生徒に読みやすい教科書

- ①全体のデザインや、グラフ・地図などの資料において、色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使うように配慮した。極力模様などを入れず、配色のみで色が区別できるようにしたほか、図表の線を従来よりも太くするなどの工夫を行った。
- ②側注やキャプションなどの比較的小さな文字については、文字をはっきりと読み取ることができるユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用した。

2. 環境に優しい素材と堅牢な造本

- ①紙には古紙を入れるとともに、環境に優しいフレッシュパルプを使用した。一方で、写真がきれいに見えるよう、白くて裏うつりの少ないものを使用した。
- ②インキには、再生産が可能な植物由来の油などを原料とした植物油インキを使用した。
- ③使用期間の間、破損することがないように、堅牢なつくりにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27 - 84	高等学校	地歴公民科	地理 B	全学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地 B - 304	新詳地理 B 代表著作者 片平博文ほか9名		

1 編修上特に意を用いた点や特色

現代世界が抱える課題や、諸地域の動向とその背景が理解できる教科書

本書では、現代世界が抱える課題や、諸地域の動向とその背景について、系統地理的考察や地誌的考察を通して、世界と日本のかかわりを意識し、国際社会に主体的に参画する態度を養うことができるように編修した。

本
書
の
特
色

- ① 現代世界の地理的事象や諸課題の新しい動きをつかめる「系統地理」(第Ⅱ部)
- ② 地域的特色とその背景までわかる「世界地誌」(第Ⅲ部)
- ③ 地図の発達の背景から活用方法まで身につく「地図と地理的技能」(第Ⅰ部)
- ④ 現代世界と日本とのかかわりがみえる工夫
- ⑤ 現代世界が抱える課題や諸地域の多様な姿を描き出す豊富な具体事例
- ⑥ 地理的見方・考え方や地理的技能が身につく教科書
- ⑦ 自学自習に適した教科書

特色 1 現代世界の地理的事象や諸課題の新しい動きをつかめる「系統地理」(第Ⅱ部)

1 人々の生活と地理的事象の関連が理解できる自然地理

・地形や気候については、成り立ちやしくみを取りあげるだけでなく、人間生活とのかかわりも丁寧に記述した。例えば、気候については、「熱帯の自然と人々の生活」、「乾燥帯の自然と人々の生活」などの項目を取りあげ、各気候帯の特徴とそこで暮らす人々の生活とのかかわりを重点的に描いた。

▶ p.36～38「小地形の形成と河川地形」、p.56～71「世界の気候区分」など

2 現代世界の新たな動きがわかる人文地理

・現代世界の新たな動きを積極的に記述し、急速に変化する現代世界の“今”への認識を深められるよう努めた。例えば、石油や天然ガスの代替エネルギーとして急速に利用が拡大するシェールオイルやシェールガスをめぐる動きや、シリア内戦とISILをめぐる動きなどについて丁寧に記述した。

▶ p.130「化石燃料の新たな展開」、p.220「シリア内戦とISILをめぐる問題」など

3 防災への認識を深められる構成

・自然現象に起因する災害(天災)や人為的な影響による事故(人災)について各所で取りあげるとともに、それに対する防災の取り組みについても丁寧に取り扱い、防災への認識を深められるよう配慮した。

▶ p.33「津波への備え」、p.76～81「日本の自然の特徴と人々の生活」、p.133「原子力発電をめぐる選択」など

4 地球的な視野から諸課題を考察できる内容構成

- ・地理的な諸課題について、地球的な視野から考察できるような内容構成にした。例えば、農林水産業の世界的な動向を踏まえたうえで食料問題を学習できる配列にした。本書で取りあげた諸課題は次の通り。
 - 「環境問題」、「食料問題」、「資源・エネルギー問題」、「人口問題」、「都市・居住問題」、「民族・領土問題」
- ・本書で取りあげた諸課題について特設ページ「**地球的課題の追究**」を設けた。このページでは、自分の言葉で諸課題の解決への取り組みを表現させる「**考察**」を設け、課題の解決に向けての態度を養えるよう配慮した。
 - p.93「海洋汚染」(環境問題), p.117「食の安全」(食料問題), p.179「感染症と保健医療」(人口問題) など

特色 2 地域的特色とその背景までわかる「世界地誌」(第Ⅲ部)

1 地域的特色を捉える最適な考察方法

- ・各地域の考察方法は、その地域的特色を捉えるうえで最適な考察方法を設定した。例えば、「北アフリカとサハラ以南のアフリカ」については、対照的な性格の「北アフリカ」と「サハラ以南のアフリカ」を比較・対照して考察することで両地域の類似点や相違点を捉えるとともに、アフリカ大陸の全体像についても理解が深まるようにした。

2 地誌学習の基盤となる自然環境や歴史的背景の記述を充実

- ・本書で取りあげた全地域で、自然環境と歴史的背景についての記述を充実させ、各地域の文化や民族、産業などをそれらの事象と関連づけながら記述し、現在の地域の構造や特色をより理解できるようにした。例えば、「第Ⅲ部 2章 10節 ラテンアメリカ」では、自然環境と歴史的背景を学習したあとに、その学習内容と関連づけながら農業や工業を学習できる構成にした。
 - 例：p.308～314「ラテンアメリカ」の構成
 - 自然環境「南北と標高で異なる自然環境」→ 歴史的背景「1 ヨーロッパ社会の影響が強い文化」
 - 農業「2 大土地所有制と農業の変化」→ 工業「3 鉱産資源を基盤とした工業化と生活の変化」

3 世界の諸地域をかたよりなく学習できる内容構成

- ・さまざまに区分できる世界の諸地域をバランス良く取りあげ、世界の諸地域的特色や地域が抱える課題への理解が特定の地域にかたよることがないように構成した。

特色 3 地図の発達の背景から活用方法まで身につく「地図と地理的技能」(第Ⅰ部)

1 地図の利用が拡大している現状とその背景を理解できる構成

- ・リモートセンシングやGNSS、GISなどの現代の地図技術を豊富な利用事例とともに解説し、地図の利用が拡大している現状とその背景を理解できる構成にした。また、巻頭1～2では衛星画像の利用事例を、巻末資料1では地図の発達の歴史を丁寧に紹介した。
 - 巻頭1～2「刻々と変化する世界」、p.6～8「地図の発達」、p.330～331「巻末資料1 さまざまな時代の地図」

2 デジタル化された地図の活用方法が身につく記述・掲載資料

- ・紙の地図だけでなく、国土交通省国土地理院の地理院地図や電子地形図25000などを本文や資料で取りあげ、デジタル化された地図の利用方法が身につくよう配慮した。
 - p.18～21「地図の利用」

3 生徒自身が暮らす地域の調査に活用できる「身近な地域の調査」

- ・「第Ⅰ部 2章 2節 身近な地域の調査」は、学校所在地を中心とした地域を例に、具体的な作業方法や手順、まとめ方を示し、生徒自身が暮らす地域の調査に活用できるよう配慮した。
 - p.22～26「身近な地域の調査」

特色 4 現代世界と日本とのかかわりがみえる工夫

1 世界と日本を比較・対照できる構成 (第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察)

・「第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察」では、自然環境、農林水産業、人口問題などの項目ごとに日本の事例を取りあげ、日本との比較・対照を通して理解を深められるよう工夫した。

- p.76～81「日本の自然の特徴と人々の生活」、p.92「日本の環境問題」、p.110～111「日本の農林水産業」、p.116「日本の食料問題」、p.133～134「日本の資源・エネルギー問題」、p.149～151「日本の工業」、p.157「日本の観光産業」、p.167「日本の貿易の現状と課題」、p.176～177「日本の人口問題」、p.198～199「日本の都市・居住問題」、p.223～225「日本の領土をめぐる問題と外国人との共生」

2 世界と日本の結びつきがとらえられる構成 (第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察)

・「第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察」では、「日本との結びつき」を各所に設け、グローバル化が進む現代世界のなかで、日本が各国・地域とどのように結びついているかを捉えられるよう工夫した。

- p.241「人や物で緊密に結びつく日本と中国」、p.246「相互理解をめざす日本と韓国」、p.255「ますます身近になる東南アジア」、p.262「関係強化が期待される日本とインド」、p.269「資源と人の交流でつながる日本と西アジア・中央アジア」、p.276「新たな関係を模索する日本とアフリカ」、p.288「産業と文化で結びつく日本とヨーロッパ」、p.294「日本海をはさんだ隣国である日本とロシア」、p.307「経済・政治の重要なパートナーであるアメリカ合衆国」、p.315「歴史的に関係の深い日本とラテンアメリカ」、p.323「物や人の交流を深める日本とオセアニア」

特色 5 現代世界が抱える課題や諸地域の多様な姿を描き出す豊富な具体事例

1 現代世界が抱える課題について、最新の動向を紹介した「トピック」

・学習内容に関連したテーマについての最新かつ具体的な事例を「トピック」で取りあげた。とくに、グローバル化や資源・エネルギー問題、防災などの内容を中心に取りあげ、今日私たちが抱える諸課題について、認識を深められるよう配慮した。

- p.134「日本近海の海底資源」、p.166「EPAとFTAの効果と課題」、p.212「ハラル認証とムスリム」など

2 世界各地の具体的な事例を取りあげた「地域を見る目」

・グローバル化が世界の諸地域にもたらす影響についての理解が深まるよう、世界各地の地域の現状や変化を具体的な事例で紹介したコラム「地域を見る目」を各所に設けた。とくに地理的事象を系統地理的に学習する第Ⅱ部で充実させ、地理的事象が世界各地でどのように現れているかを実感を伴って理解できるようにした。

- p.104「急増する南アメリカの大豆生産」、p.218～219「民族・領土をめぐる対立～パレスチナ問題を例に～」など
- ・世界各地への独自取材の成果を活用し、その地域の臨場感を感じとれる記述内容に工夫した。
 - p.101「フィードロットの新しい課題」(2014年のアメリカ合衆国での取材成果を反映) など

3 学習の理解をさらに深める側注コラム「プラスα」

・側注欄には、本文の内容からさらに踏み込んで解説した「プラスα」を各所に設け、学習の理解をさらに深められるようにした。コンパクトにまとめることで、要点を端的におさえられるよう工夫した。

- p.52「風の成因」、p.208「スペイン語と少数民族」、p.265「スタンのつく地域」など

特色 6 地理的見方・考え方や地理的技能が身につく教科書

1 地理的見方・考え方が身につくページ構成

- ・各項タイトル横の側注欄には、「リード」を設け、その項の学習内容の視点や課題を明確に示した。
 - ・各項のおわりには、「チェック」を設け、生徒が学習の要点を確認できるようにした。「チェック」は、自分の言葉で説明する内容を中心に構成し、思考力・判断力・表現力を育成できるよう配慮した。
 - ・各ページに掲載した写真や図表は地理的・地域的特色や分布の傾向を読み取るなどの地理的技能を養うことができるよう工夫した。そのうち、とくに重要な図表については、図表の読み解きの視点を示した「読図」を設け、普段の学習のなかで図表を読み解くための地理的な見方や考え方が身につくよう工夫した。
- *上記の「リード」、「チェック」、「読図」を設置したページ構成と **特色 7** に示す工夫によって、生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮した。

2 地理的技能が身につく「技能をみがく」

- ・各単元の内容に応じて、地理学習に必要な技能を身につけるための特設ページ「技能をみがく」を全 20 か所設けた。とくに地形図や統計地図、グラフの読図や作図などの活動を充実させた。また、写真や図表の読み解きの設問「TRY」を各所に設け、生徒が主体的に学習できるよう配慮した。
- ◉ p.11「時差の計算」、p.16～17「統計地図の読み取り方とつくり方」、p.105「図形表現図の読み取り方」など
- ・地理的見方・考え方が身につけられるよう、地理的見方・考え方の視点を示した「ポイント」を各所に設けた。

特色 7 自学自習に適した教科書

1 生徒の疑問を即座に解決する「用語解説」

- ・「用語解説」を充実させ、地理を学習するうえでの重要な用語についての理解を深められるようにした。原則として用語が使用されているページの側注欄に解説を設けることで、生徒の疑問を即座に解決することができるよう配慮した。
- ・取りあげた地理的用語のうち、「大地形と小地形」、「先進国と発展途上国」のように、対比する用語についてはその違いがわかるよう解説した。
- ◉ p.29「大地形と小地形」、p.140「先進国と発展途上国」 など

2 検索性を高める工夫

- ・検索対象の語句が掲載されたページを容易に探し出せるよう、さくいんを充実させた。とくに「用語解説」が掲載されたページは一目でわかるようにページ番号を赤で示した。
- ・学習内容が他のページと関連する場合には、関連する内容が掲載されたページを示す「リンク」を側注欄に設け、学習をより深められるよう配慮した。

2 対照表

学習指導要領の内容	図書の構成・内容	該当箇所	配当時数
(1) 様々な地図と地理的技能	第1部 さまざまな地図と地理的技能		8
ア 地理情報と地図	1章 地理情報と地図	p.6～17	4
イ 地図の活用と地域調査	2章 地図の活用と地域調査	p.18～26	4
(2) 現代世界の系統地理的考察	第II部 現代世界の系統地理的考察		77
ア 自然環境	1章 自然環境	p.28～93	24
イ 資源、産業	2章 資源と産業	p.94～167	29
ウ 人口、都市・村落	3章 人口、村落・都市	p.168～200	13
エ 生活文化、民族・宗教	4章 生活文化、民族・宗教	p.201～226	11
(3) 現代世界の地誌的考察	第III部 現代世界の地誌的考察		55
ア 現代世界の地域区分	1章 現代世界の地域区分	p.228～230	1
イ 現代世界の諸地域	2章 現代世界の諸地域	p.231～323	49
ウ 現代世界と日本	3章 現代世界と日本	p.324～329	5

計140時間